

調査の結果

第1節 ふれあい、助け合いのまちづくりについて

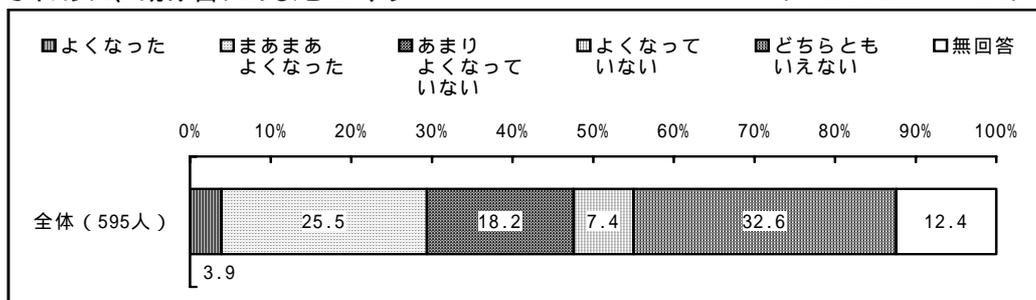
1-1 取り組みに対する評価（問25）

「ふれあい、助け合いのまちづくり」は、“よくなった”が29.4%、“よくなっていない”が25.6%。

地域福祉の推進、ボランティア活動の支援など、ふれあい、助け合いのまちづくりについては「よくなった」が3.9%、「まあまあよくなった」が25.5%で、あわせると“よくなった”が29.4%です。

その一方、「あまりよくなっていない」が18.2%、「よくなっていない」が7.4%で、あわせると“よくなっていない”が25.6%を占めています。

図 ふれあい、助け合いのまちづくり（回答者総数：595人）

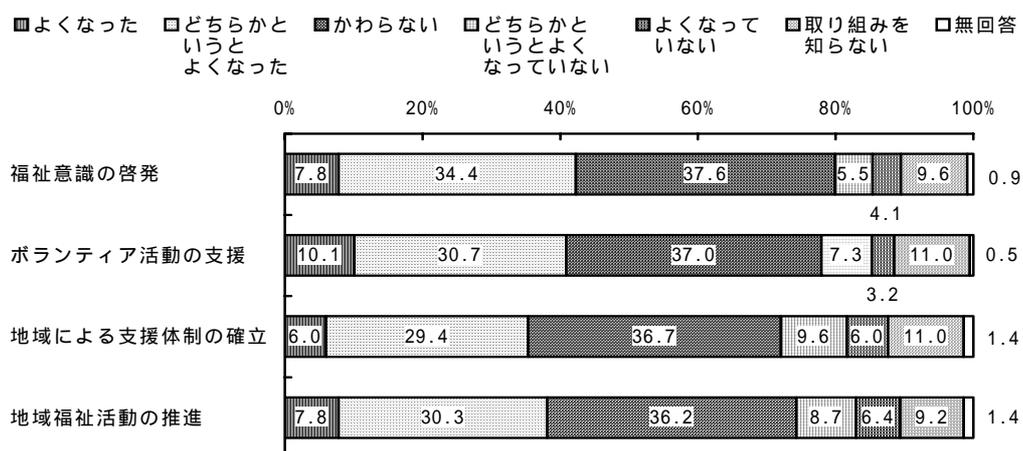


1-2 施策に対する満足度（満足度評価）

“よくなった”が『福祉意識の啓発』と『ボランティア活動の支援』では4割以上。

各施策に対する満足度については、「よくなった」と「どちらかというよくなった」をあわせた“よくなった”が、『福祉意識の啓発』では42.2%、『ボランティア活動の支援』では40.8%と4割以上を占めています。

図 施策に対する満足度（回答者総数：218人）



第2節 人にやさしい生活環境の整備について

2-1 取り組みに対する評価（問25）

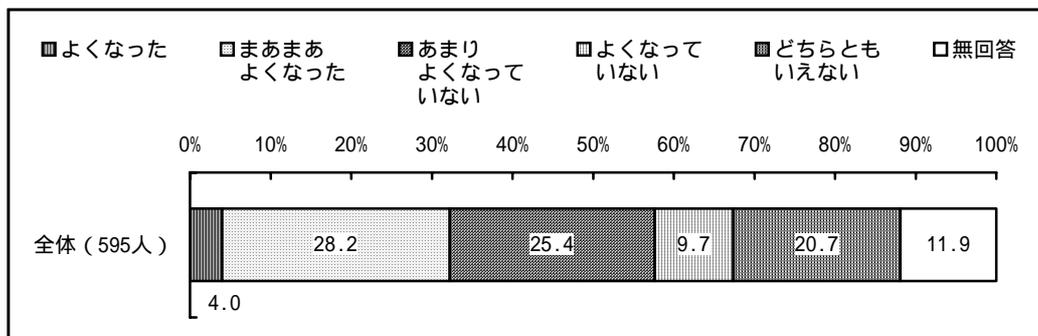
「人にやさしい生活環境の整備」は、「よくなった」が32.2%、「よくなっていない」が35.1%。

バリアフリー化の推進など、人にやさしい生活環境の整備については「よくなった」が4.0%、「まあまあよくなった」が28.2%で、あわせると「よくなった」が32.2%です。

その一方、「あまりよくなっていない」が25.4%、「よくなっていない」が9.7%で、あわせると「よくなっていない」が35.1%を占めています。

図 人にやさしい生活環境の整備

（回答者総数：595人）



2-2 施策に対する満足度（満足度評価）

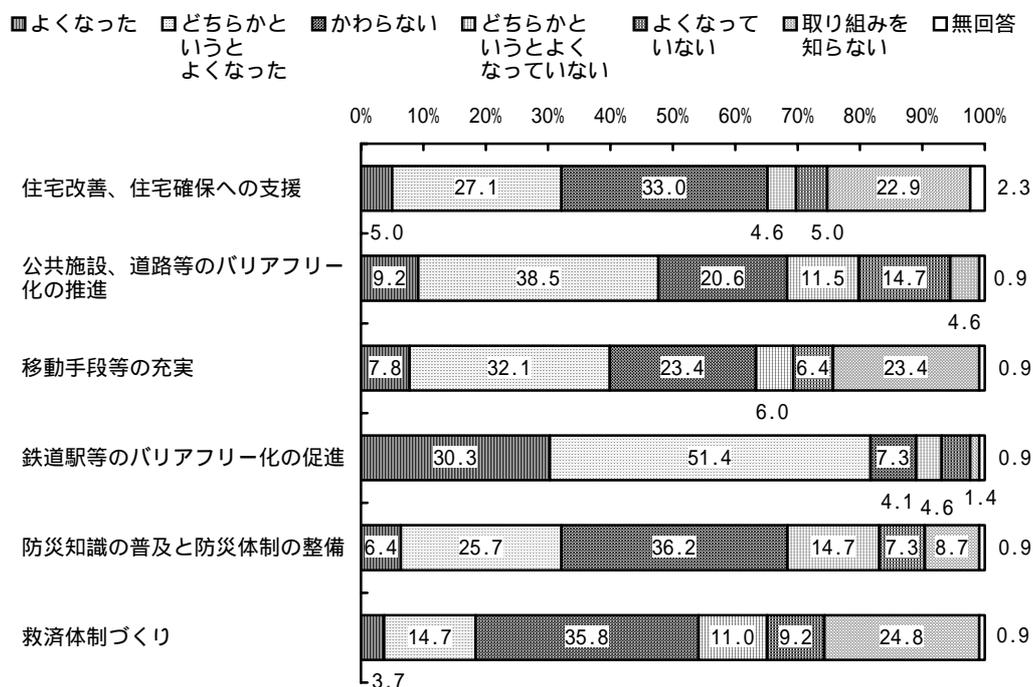
『鉄道駅等のバリアフリー化の促進』の評価は高く、『救済体制づくり』の評価は低い。

各施策に対する満足度については、「よくなった」と「どちらかというよくなった」をあわせた“よくなった”が、『鉄道駅等のバリアフリー化の促進』では81.7%と8割以上を占め高い評価を得ています。また、『公共施設、道路等のバリアフリー化の推進』では47.7%と4割以上を占めています。

その一方、『救済体制づくり』では18.4%と2割を下回り評価が低くなっています。

図 施策に対する満足度

（回答者総数：218人）



第3節 保健・福祉・医療の連携とサービスの充実について

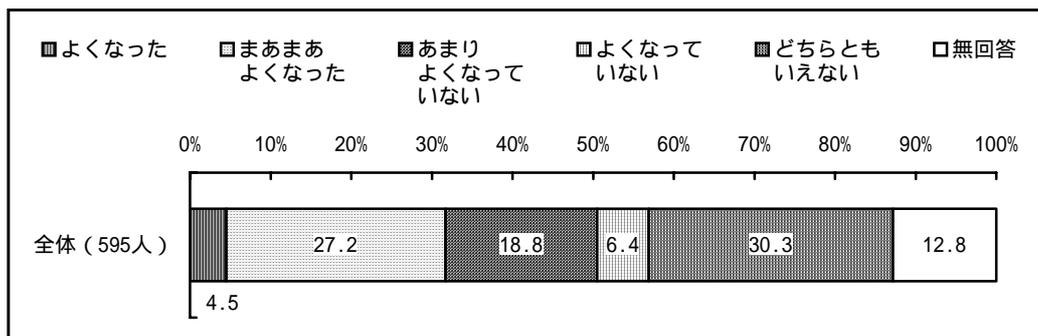
3-1 取り組みに対する評価（問25）

「保健・福祉・医療の連携とサービスの充実」は、「よくなった」が31.7%、「よくなっていない」が25.2%。

市と関係各機関との連携強化など、保健・福祉・医療の連携とサービスの充実については「よくなった」が4.5%、「まあまあよくなった」が27.2%で、あわせると「よくなった」が31.7%です。

その一方、「あまりよくなっていない」が18.8%、「よくなっていない」が6.4%で、あわせると「よくなっていない」が25.2%を占めています。

図 保健・福祉・医療の連携とサービスの充実 (回答者総数：595人)



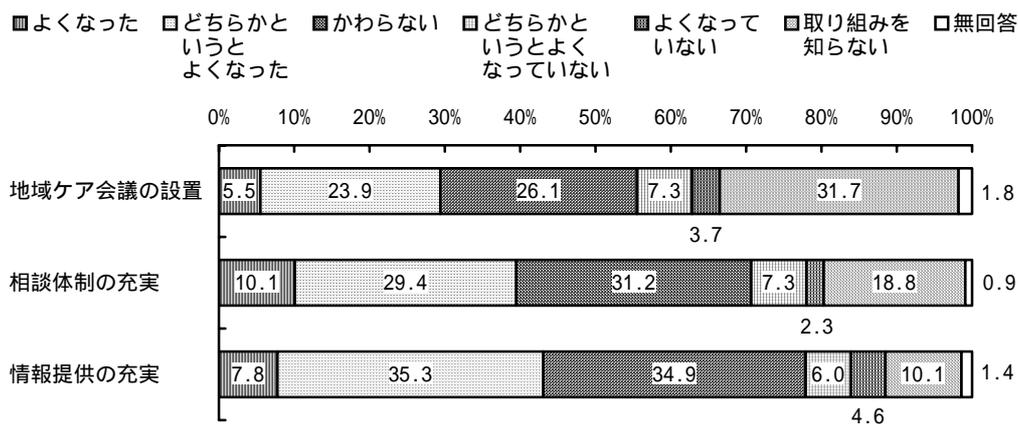
3-2 施策に対する満足度（満足度評価）

“よくなった”が『情報提供の充実』では4割以上。

各施策に対する満足度については、「よくなった」と「どちらかというよくなった」をあわせて“よくなった”が、『情報提供の充実』では43.1%と4割以上を占めています。

また、「取り組みを知らない」が『地域ケア会議の設置』では31.7%と3割以上を占めています。

図 施策に対する満足度 (回答者総数：218人)



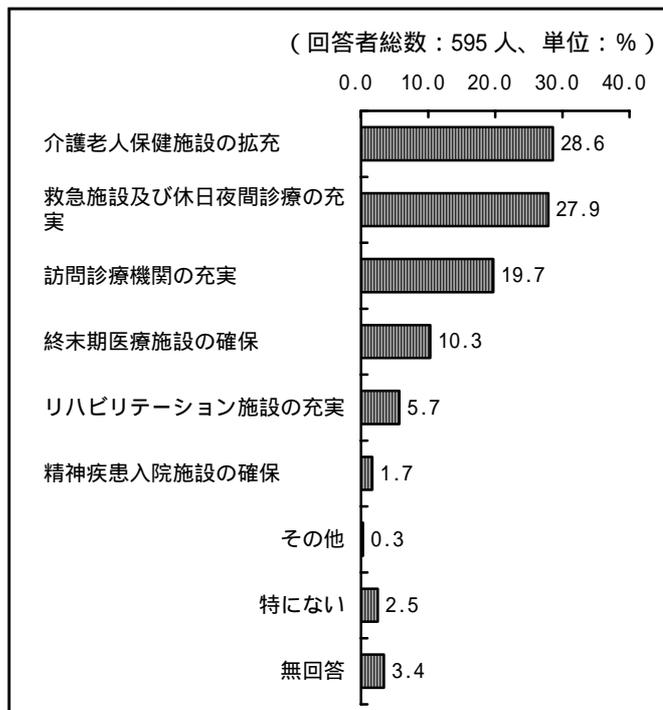
3-3 関連設問

(1) 医療に関する取り組みとして必要なもの(問10)

「介護老人保健施設の拡充」と「救急施設及び休日夜間診療の充実」がどちらも約3割。

医療に関する取り組みとして必要なものについてたずねたところ、「介護老人保健施設の拡充」(28.6%)と「救急施設及び休日夜間診療の充実」(27.9%)がどちらも約3割を占めています。

図 医療に関する取り組みとして必要なもの



第4節 健康づくりの推進について

4-1 取り組みに対する評価（問25）

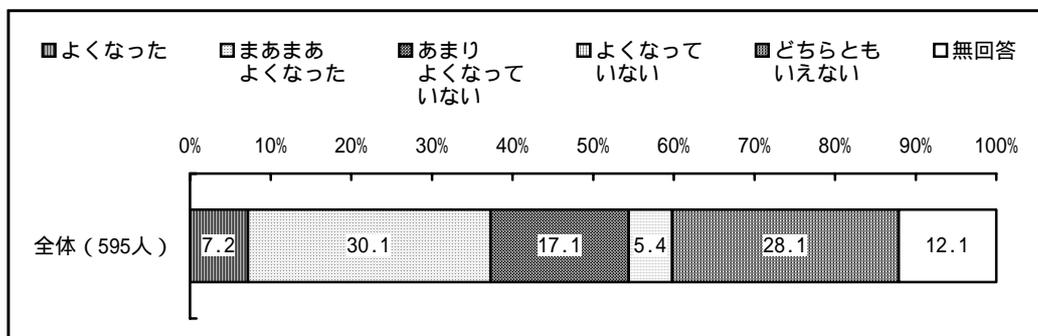
「健康づくりの推進」は、「よくなった」が約4割、「よくなっていない」が約2割。

市民の健康づくり支援、保健センターの活用など、健康づくりの推進については「よくなった」が7.2%、「まあまあよくなった」が30.1%で、あわせると「よくなった」が37.3%です。

その一方、「あまりよくなっていない」が17.1%、「よくなっていない」が5.4%で、あわせると「よくなっていない」が22.5%を占めています。

図 健康づくりの推進

（回答者総数：595人）

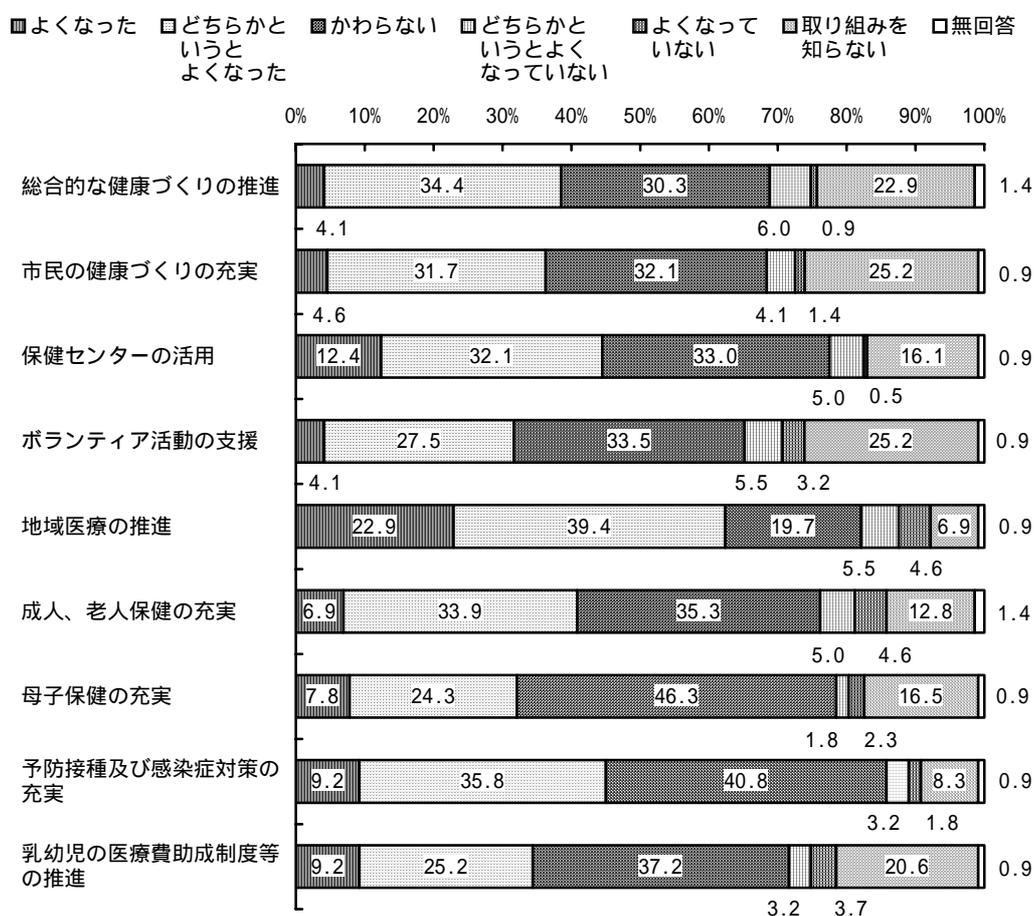


4-2 施策に対する満足度（満足度評価）

『地域医療の推進』では6割以上、また、『予防接種及び感染症対策の充実』、『保健センターの活用』、『成人、老人保健の充実』では4割以上。

各施策に対する満足度については、「よくなった」と「どちらかというよくなった」をあわせた“よくなった”が、『地域医療の推進』では62.3%と6割以上を占め高い評価を得ています。また、『予防接種及び感染症対策の充実』では45.0%、『保健センターの活用』では44.5%、『成人、老人保健の充実』では40.8%と4割以上を占めています。

図 施策に対する満足度 (回答者総数：218人)



4-3 関連設問

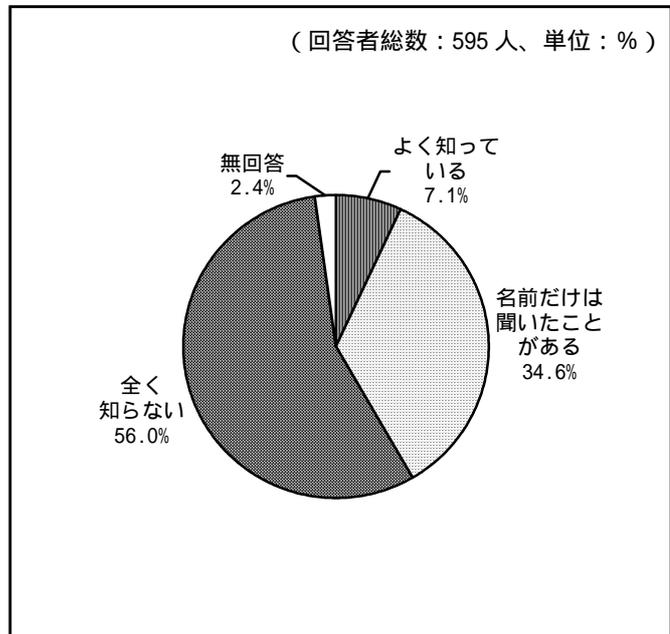
(1) 『健康さくら21』の周知度(問7)

「全く知らない」が過半数を占める。

市では、すべての市民が健康で、いつまでも現役でこころ豊かに暮らせる健康なまちをめざした、健康増進計画『健康さくら21』を推進しています。

この『健康さくら21』を知っているかについてたずねたところ、「よく知っている」が7.1%で、「全く知らない」が過半数を占めています。

図 『健康さくら21』の周知度



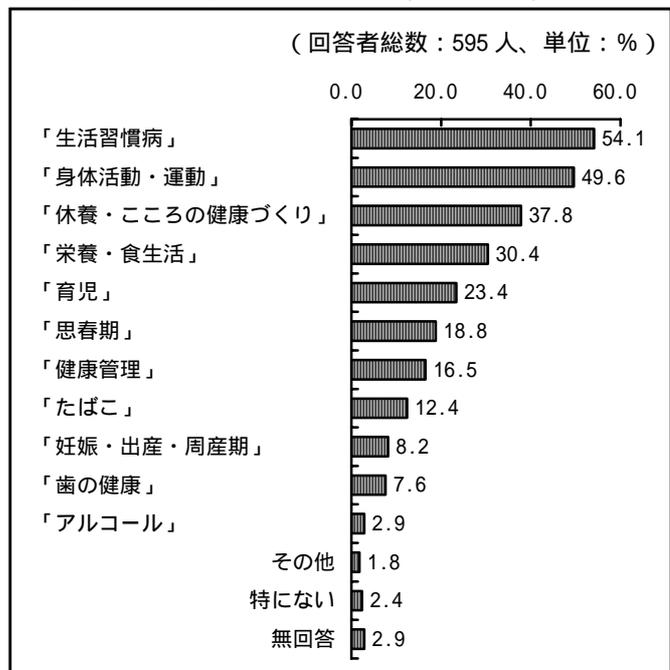
(2) 優先的に行うべき取り組み(問8)

『生活習慣病』が最も高く、『身体活動・運動』、『休養・こころの健康づくり』が続く。

市では、市民のみなさんが自ら健康づくりに取り組むために、「市民を支える取り組み」を進めようとしています。

優先的に行うべき取り組みについてたずねたところ、『生活習慣病』が54.1%で最も高く、次いで『身体活動・運動』が49.6%、『休養・こころの健康づくり』が37.8%で続いています。

図 優先的に行うべき取り組み(複数回答)

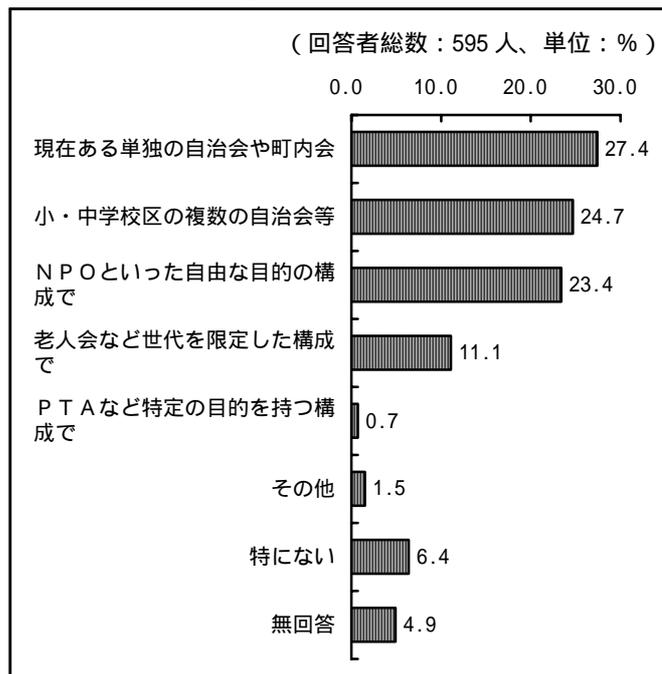


(3) 取り組みを推進するコミュニティのあり方(問9)

「現在ある単独の自治会や町内会」、「小・中学校区の複数の自治会等」、「NPOといった自由な目的の構成で」の3つに。

健康づくりを進めるにあたって、「市民を支える取り組み」を推進するコミュニティ(共同体、地域社会)のあり方についてたずねたところ、「現在ある単独の自治会や町内会」、「小・中学校区の複数の自治会等」、「NPOといった自由な目的の構成で」の3つに大きく分かれました。

図 取り組みを推進するコミュニティのあり方



第5節 高齢者福祉の推進について

5-1 取り組みに対する評価（問25）

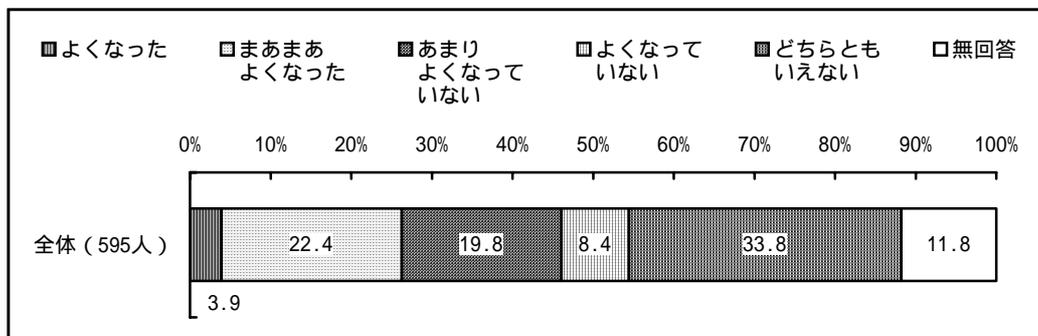
「高齢者福祉の推進」は、“よかった”と“よくなっていない”がともに約3割。

生きがい支援、在宅介護支援の推進など、高齢者福祉の推進については「よかった」が3.9%、「まあまあよかった」が22.4%で、あわせると“よかった”が26.3%です。

その一方、「あまりよくなっていない」が19.8%、「よくなっていない」が8.4%で、あわせると“よくなっていない”が28.2%を占めています。

図 高齢者福祉の推進

（回答者総数：595人）



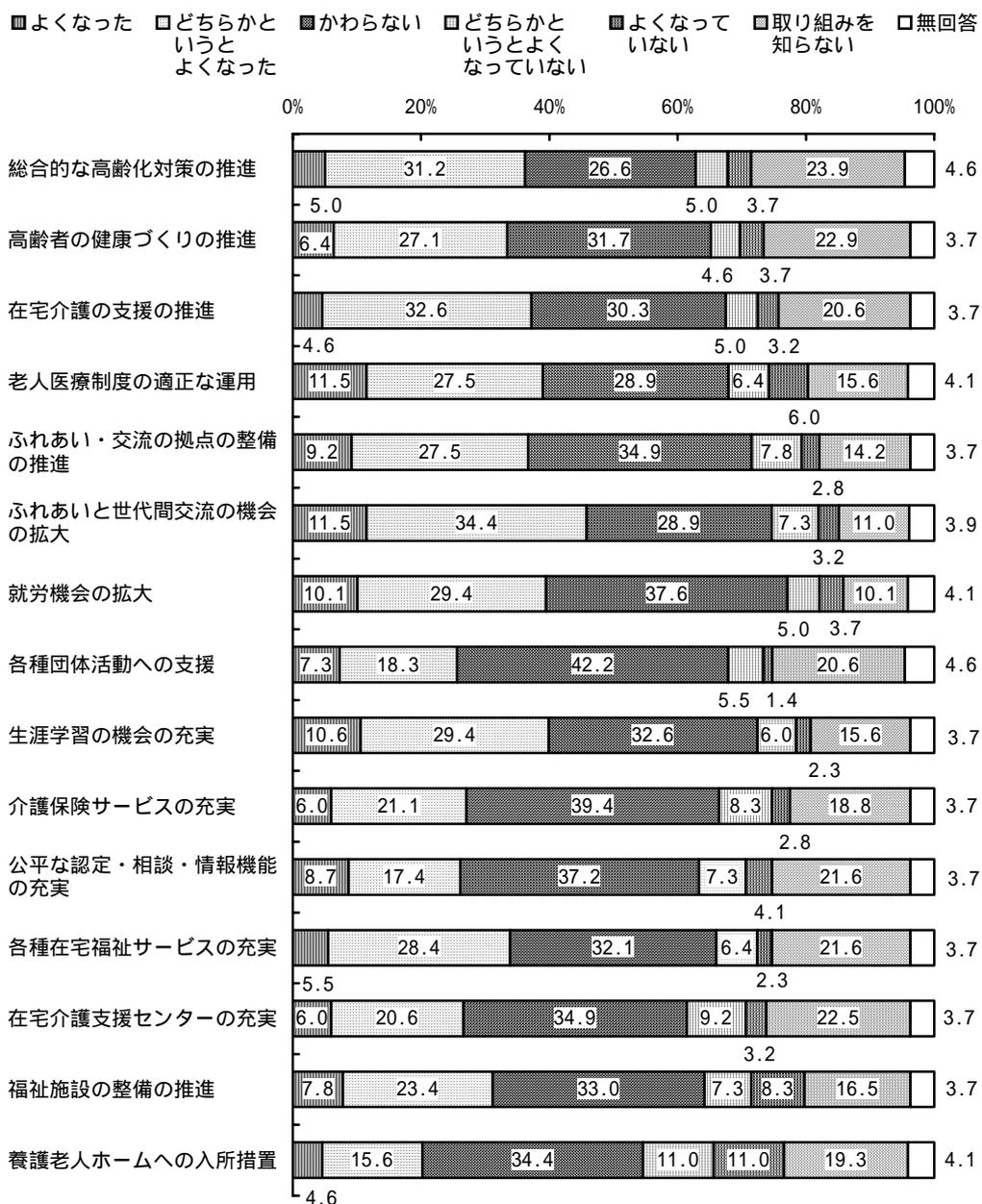
5-2 施策に対する満足度（満足度評価）

“よくなった”が『ふれあいと世代間交流の機会の拡大』と『生涯学習の機会の充実』では4割以上。

各施策に対する満足度については、「よくなった」と「どちらかというよくなった」をあわせた“よくなった”が、『ふれあいと世代間交流の機会の拡大』では45.9%、『生涯学習の機会の充実』では40.0%と4割以上を占めています。

図 施策に対する満足度

（回答者総数：218人）



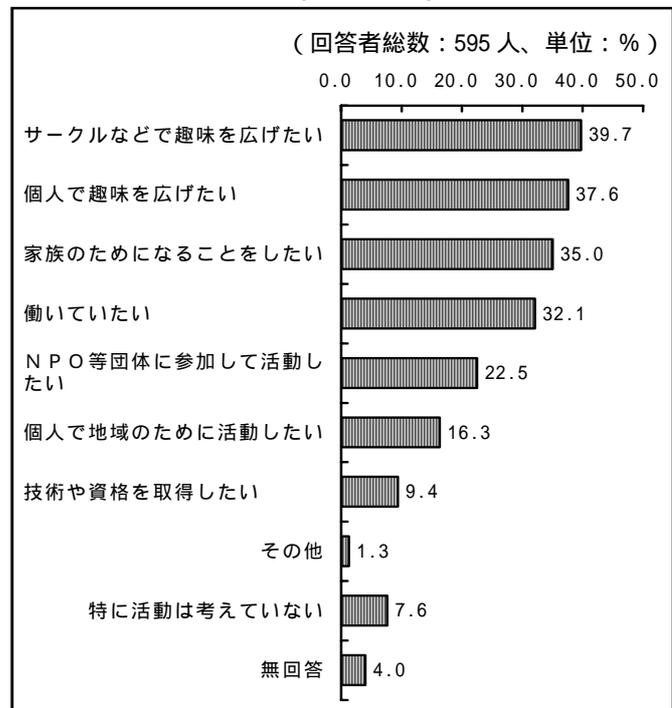
5-3 関連設問

(1) 老後行いたい活動(問11)

団体や個人という活動形態が異なってはいても、趣味を広げたいとする人が約4割。

老後行いたい活動についてたずねたところ、「サークルなどで趣味を広げたい」が39.7%で最も高く、次いで「個人で趣味を広げたい」が37.6%となっており、団体や個人という活動形態が異なってはいても、趣味を広げたいとする人が約4割ずつを占めています。

図 老後行いたい活動(複数回答)



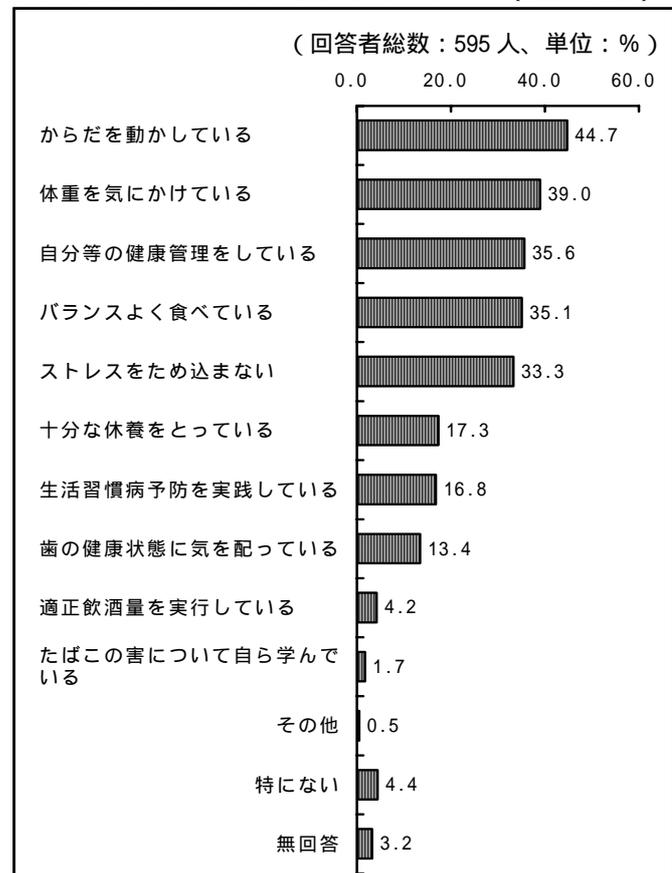
(2) 介護予防のために心がけていること(問12)

「からだを動かしている」が最も高く、「体重を気にかけている」、「自分等の健康管理をしている」が続く。

近年、高齢者の増加とともに、介護を必要とする人が増加してきています。

介護予防のために心がけていることについてたずねたところ、「からだを動かしている」が44.7%で最も高く、次いで「体重を気にかけている」が39.0%、「自分等の健康管理をしている」が35.6%と続いています。

図 介護予防のために心がけていること(複数回答)



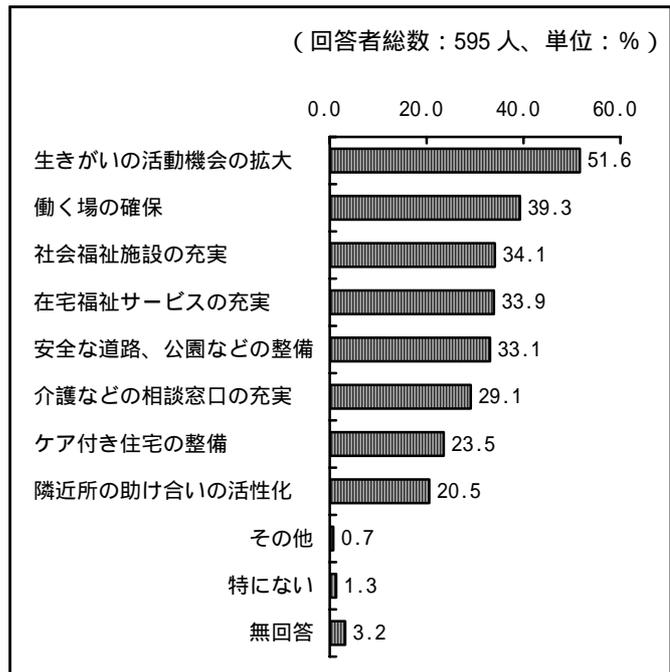
(3) 今後の福祉に関する取り組みに必要なこと(問13)

「生きがいの活動機会の拡大」が51.6%で最も高い。

わが国は急速に高齢化が進んでおり、市においても本年4月1日現在、人口に占める65歳以上の割合(高齢化率)は、15.1%となっています。

今後の福祉に関する取り組みに必要なことをたずねたところ、「生きがいの活動機会の拡大」が51.6%で最も高く、次いで「働く場の確保」が39.3%、「社会福祉施設の充実」が34.1%となっています。

図 今後の福祉に関する取り組みに必要なこと(複数回答)



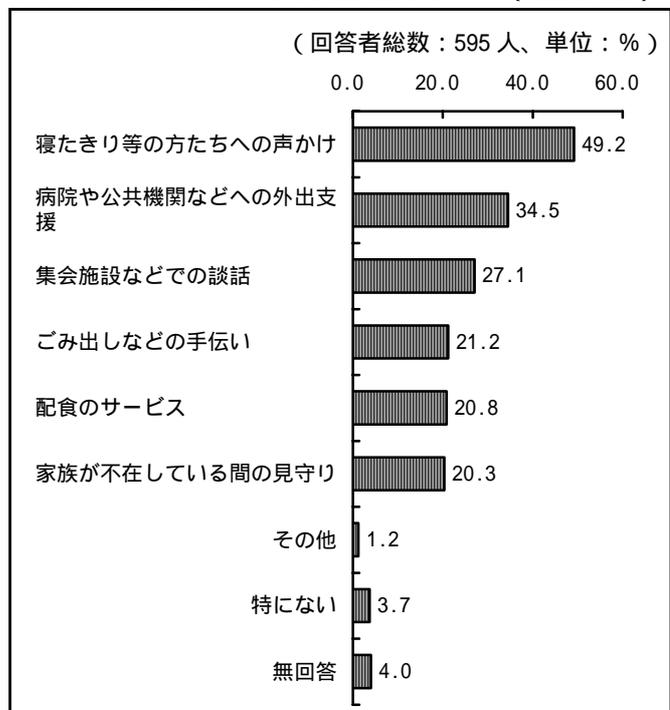
(4) 高齢者支援として市民が担えること(問14)

「寝たきり等の方たちへの声かけ」が最も高く、「病院や公共機関などへの外出支援」、「集会施設などでの談話」が続く。

市では、新たな時代に対応した市民主体のまちづくりを実践していくため、「市民協働型の自治運営」をめざしています。

高齢者支援として市民(ボランティア、NPOを含む)が担えることについてたずねたところ、「寝たきり等の方たちへの声かけ」が49.2%で最も高く、次いで「病院や公共機関などへの外出支援」が34.5%、「集会施設などでの談話」が27.1%と続いています。

図 高齢者支援として市民が担えること(複数回答)



第6節 障害者福祉の推進について

6-1 取り組みに対する評価（問25）

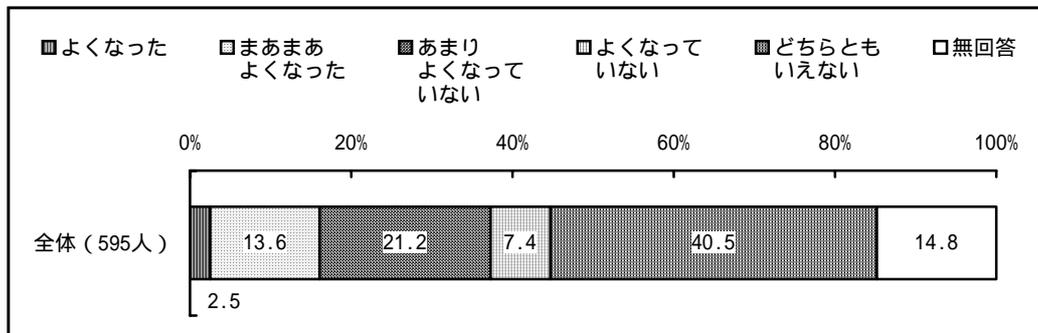
「障害者福祉の推進」は、「よくなった」が約2割、「よくなっていない」が約3割。

障害者の自立支援、社会参加の促進など、障害者福祉の推進については「よくなった」が2.5%、「まあまあよくなった」が13.6%で、あわせると「よくなった」が16.1%です。

その一方、「あまりよくなっていない」が21.2%、「よくなっていない」が7.4%で、あわせると「よくなっていない」が28.6%を占めています。

図 障害者福祉の推進

（回答者総数：595人）



6-2 施策に対する満足度（満足度評価）

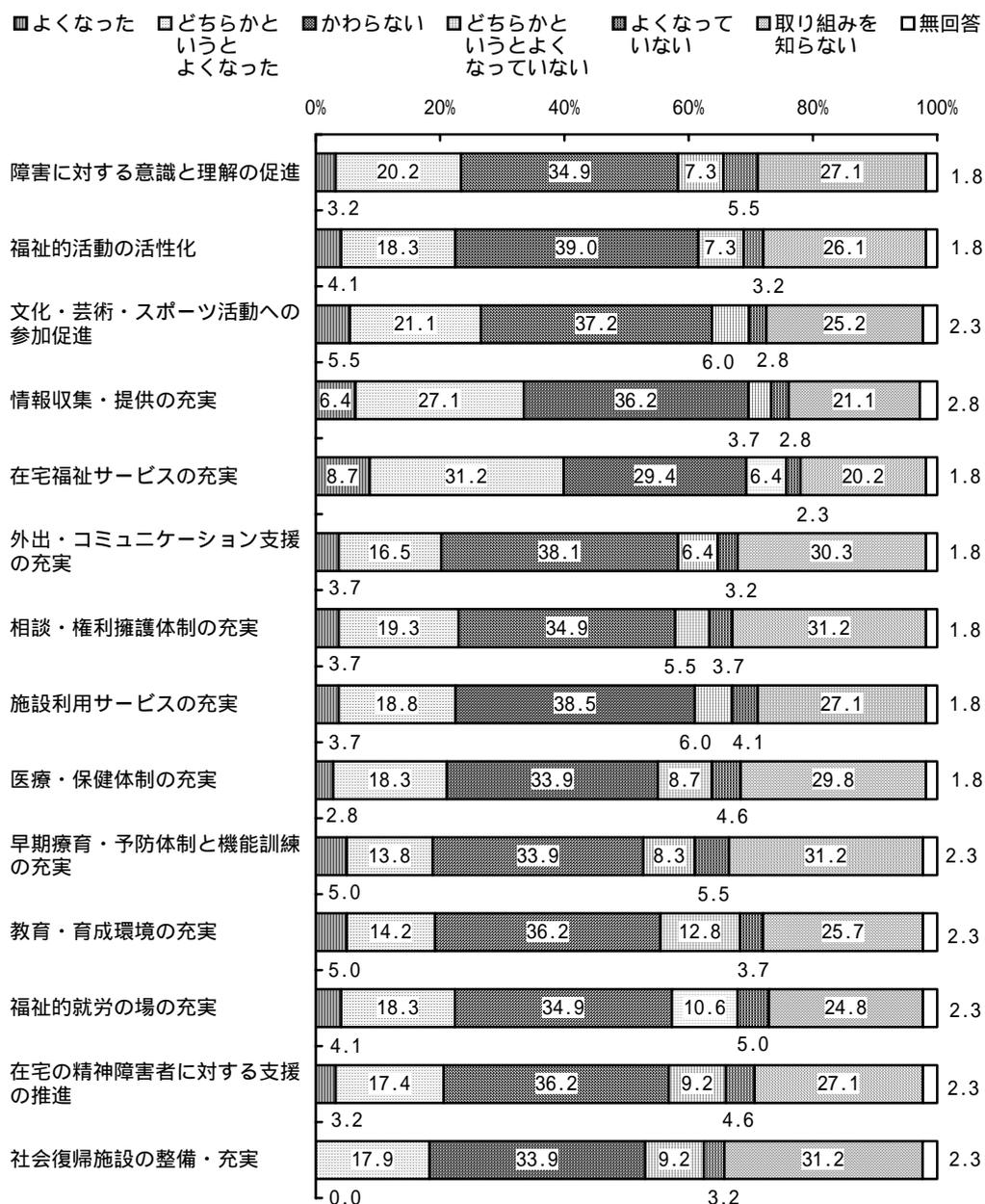
特に評価が低いのは『早期療育・予防体制と機能訓練の充実』と『教育・育成環境の充実』。

各施策に対する満足度については、「よくなった」と「どちらかというよくなった」をあわせて「よくなった」がすべて4割を下回っており、特に評価が低いのは『早期療育・予防体制と機能訓練の充実』では18.8%、『教育・育成環境の充実』では19.2%となっています。

また、「取り組みを知らない」が『相談・権利擁護体制の充実』、『早期療育・予防体制と機能訓練の充実』、『社会復帰施設の整備・充実』、『外出・コミュニケーション支援の充実』では3割以上を占めています。

図 施策に対する満足度

（回答者総数：218人）



6-3 関連施策

(1) 障害者との交流経験 (問17)

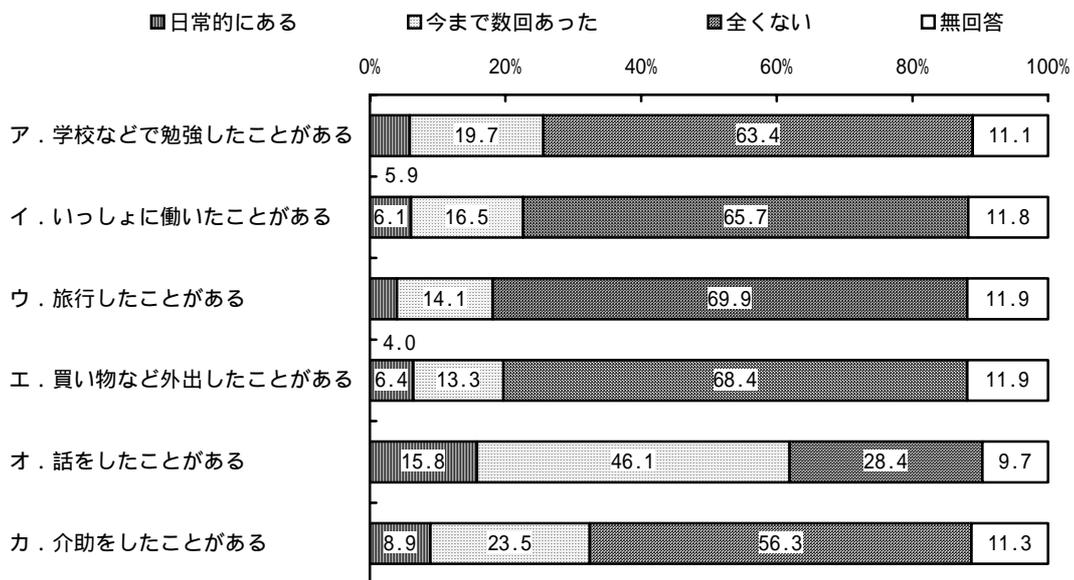
「日常的にある」と「今まで数回あった」をあわせた“ある”の割合が最も高いのは『話をしたことがある』。

障害者との交流経験についてたずねたところ、「日常的にある」と「今まで数回あった」をあわせた“ある”は『話をしたことがある』が61.9%で最も高くなっており、次いで『介助をしたことがある』が32.4%で高くなっています。

その一方、「全くない」は『旅行したことがある』が69.9%、『買い物など外出したことがある』が68.4%、『いっしょに働いたことがある』が65.7%、『学校などで勉強したことがある』が63.4%で6割以上を占めています。

図 障害者との交流経験

(回答者総数：595人)



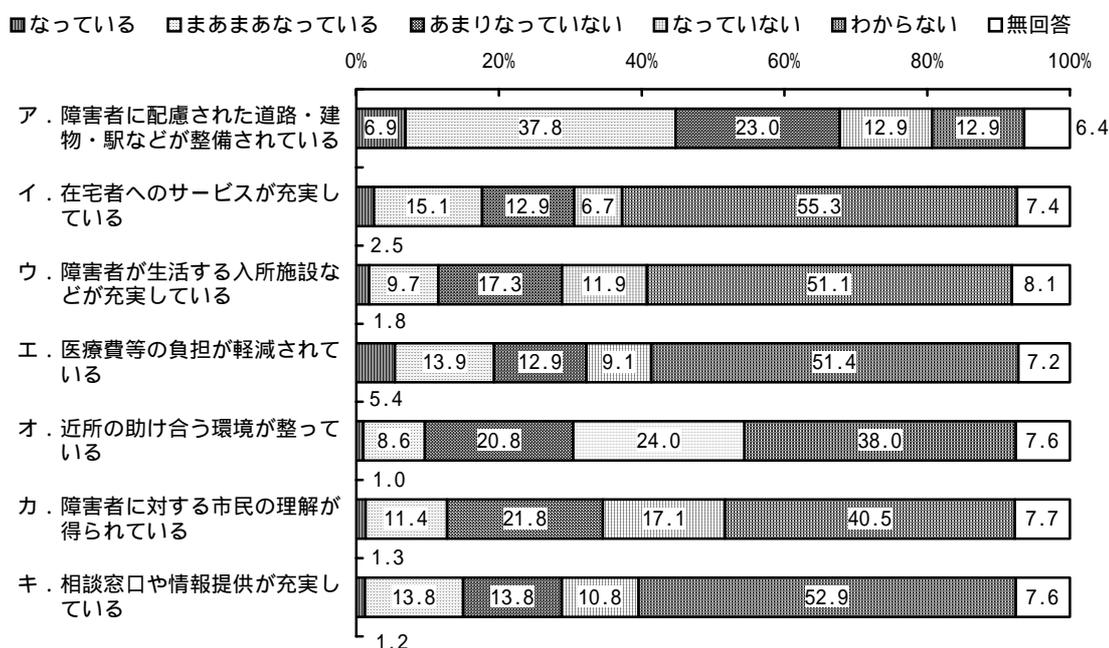
(2) 障害者に住みよいまちになってきたか(問18)

「なっている」と「まあまあなっている」をあわせた“なっている”の割合が最も高いのは『障害者に配慮された道路・建物・駅などが整備されている』。

障害者にとって住みよいまちになってきたかたずねたところ、「なっている」と「まあまあなっている」をあわせた“なっている”は『障害者に配慮された道路・建物・駅などが整備されている』が44.7%で最も高くなっています。

その一方、「あまりなっていない」と「なっていない」をあわせた“なっていない”は『近所の助け合う環境が整っている』が44.8%、『障害者に対する市民の理解が得られている』が38.9%と約4割を占めています。

図 障害者に住みよいまちになってきたか (回答者総数：595人)



第7節 家庭・児童福祉の推進について

7-1 取り組みに対する評価（問25）

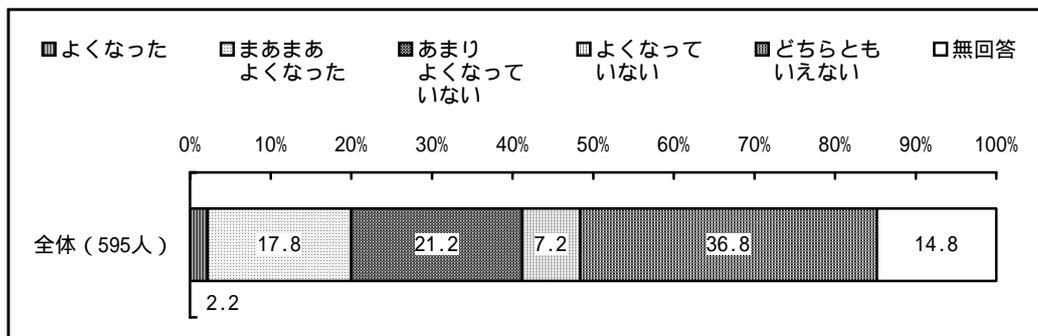
「家庭・児童福祉の推進」は、“よくなった”が2割、“よくなっていない”が約3割。

保育サービス、子育て支援の推進など、家庭・児童福祉の推進については「よくなった」が2.2%、「まあまあよくなった」が17.8%で、あわせると“よくなった”が20.0%です。

その一方、「あまりよくなっていない」が21.2%、「よくなっていない」が7.2%で、あわせると“よくなっていない”が28.4%を占めています。

図 家庭・児童福祉の推進

（回答者総数：595人）



7-2 施策に対する満足度（満足度評価）

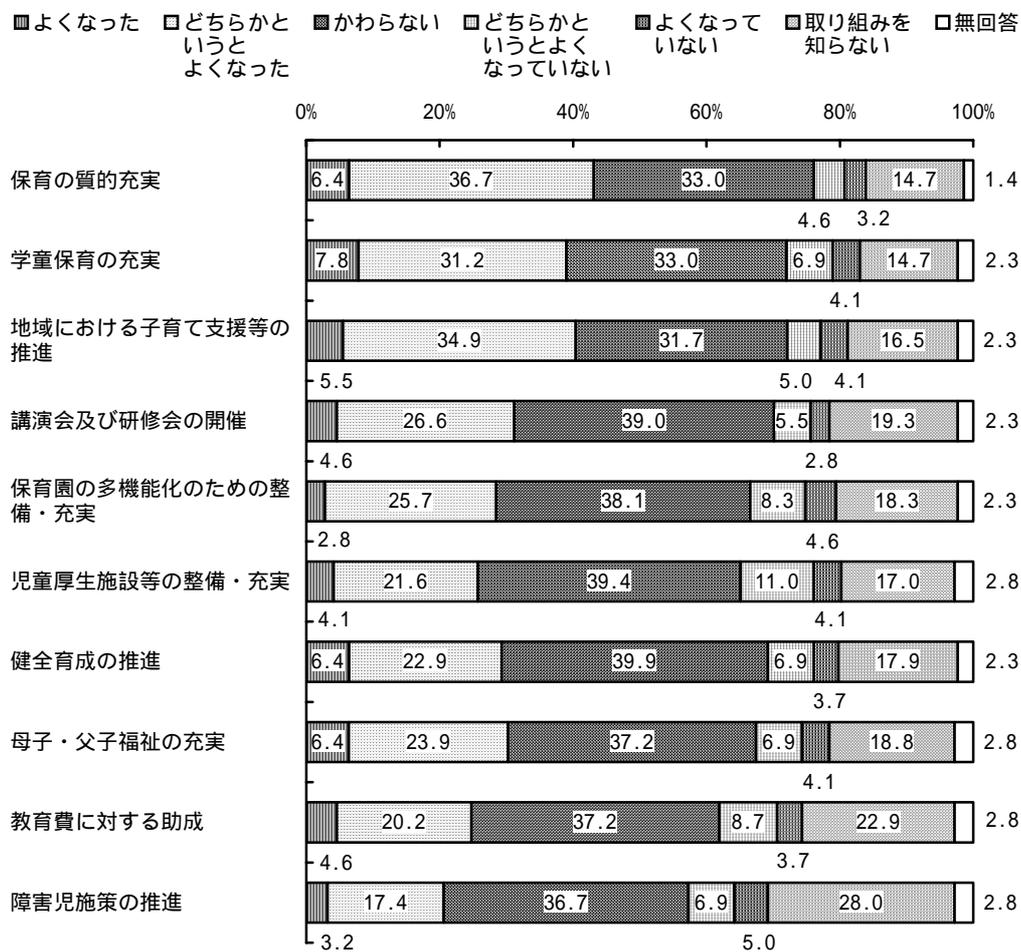
“よくなった”が『保育の質的充実』と『地域における子育て支援等の推進』では4割以上。

各施策に対する満足度については、「よくなった」と「どちらかというよくなった」をあわせて“よくなった”が、『保育の質的充実』では43.1%、『地域における子育て支援等の推進』では40.4%と4割以上を占めています。

その一方、『障害児施策の推進』では20.6%と最も評価が低くなっています。

図 施策に対する満足度

（回答者総数：218人）



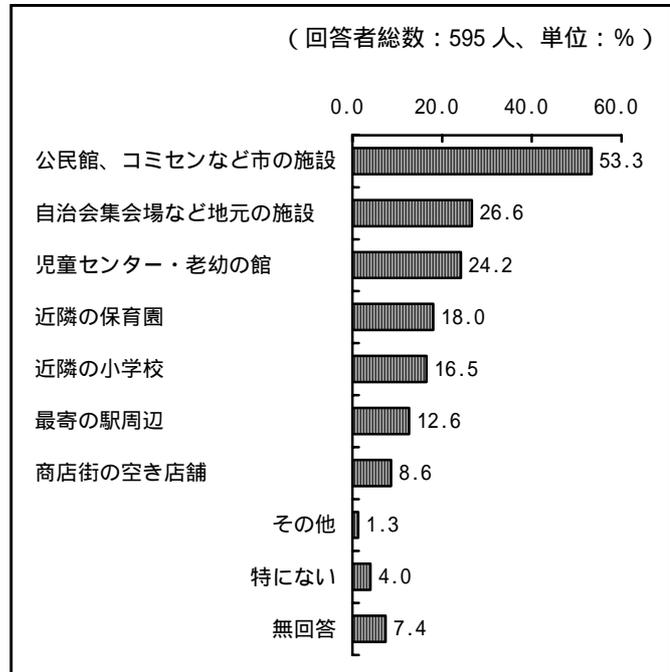
7-3 関連設問

(1) 子育て関連施設があると便利な場所(問19)

「公民館、コミセンなど市の施設」が圧倒的に高い。

子育て関連施設があると便利な場所についてたずねたところ、「公民館、コミセンなど市の施設」が53.3%で圧倒的に高くなっています。

図 子育て関連施設があると便利な場所(複数回答)

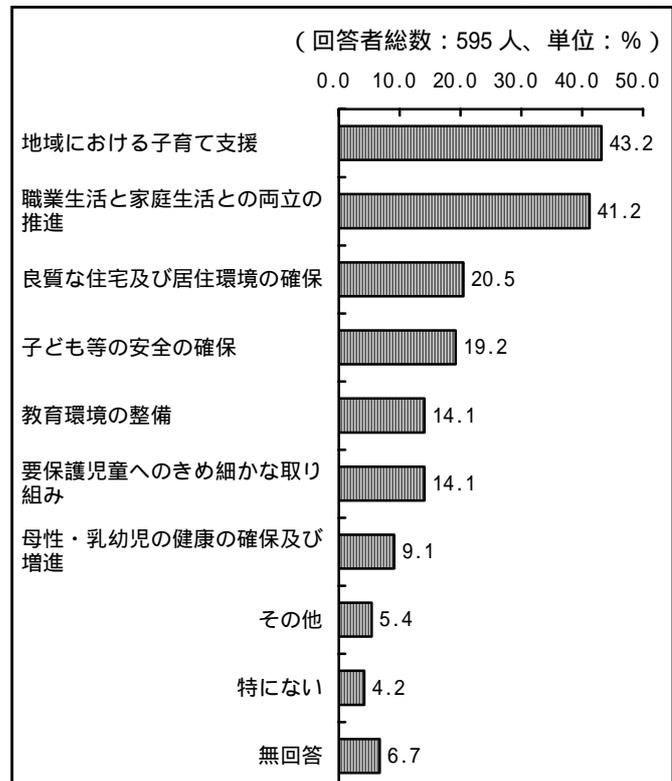


(2) 子どもを産み・育てやすい環境の条件(問20)

「地域における子育て支援」と「職業生活と家庭生活との両立の推進」が4割以上。

わが国では、少子化が年々進んできていますが、子どもを産み・育てやすい環境の条件についてたずねたところ、「地域における子育て支援」(43.2%)と「職業生活と家庭生活との両立の推進」(41.2%)が4割以上を占めています。

図 子どもを産み・育てやすい環境の条件(複数回答)

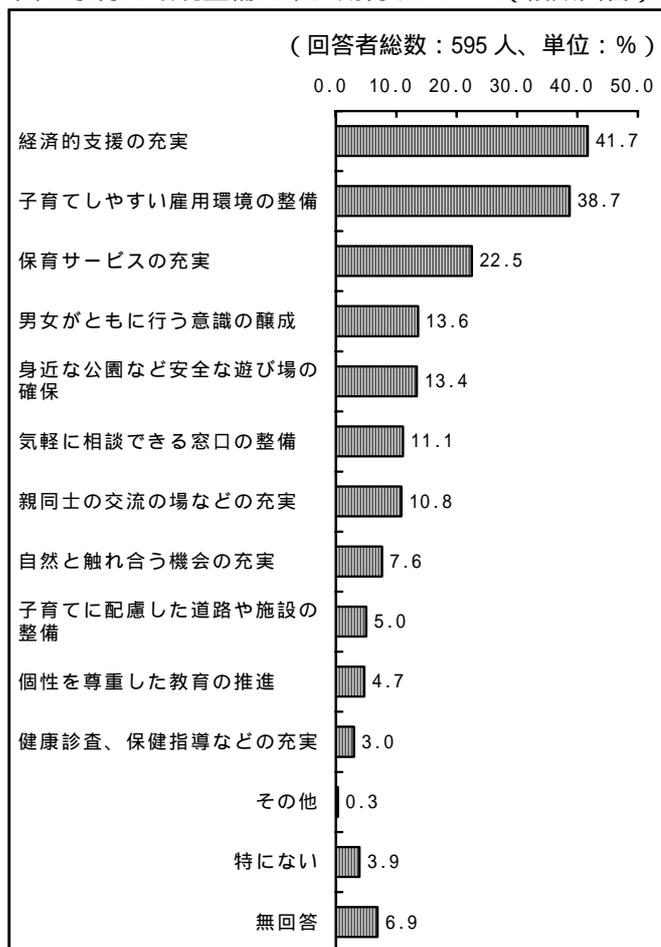


(3) 子育て環境整備で市に期待すること(問21)

「経済的支援の充実」が最も高く、「子育てしやすい雇用環境の整備」、「保育サービスの充実」が続く。

子育て環境整備で市に期待することについてたずねたところ、「経済的支援の充実」が41.7%で最も高く、次いで「子育てしやすい雇用環境の整備」が38.7%、「保育サービスの充実」が22.5%と続いています。

図 子育て環境整備で市に期待すること(複数回答)

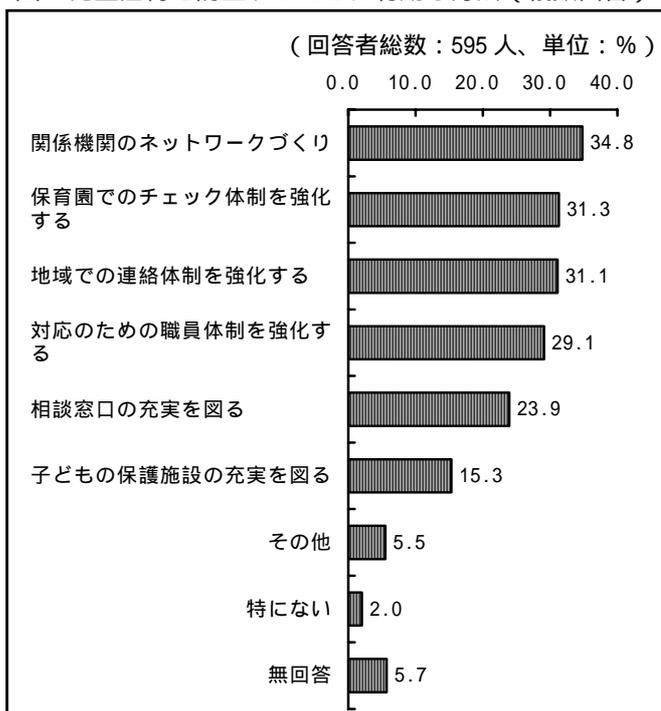


(4) 児童虐待を防止するために有効な方法(問22)

「関係機関のネットワークづくり」、「保育園でのチェック体制を強化する」、「地域での連絡体制を強化する」が3割以上。

児童虐待を防止するために有効な方法についてたずねたところ、「関係機関のネットワークづくり」が34.8%で最も高く、次いで「保育園でのチェック体制を強化する」が31.3%、「地域での連絡体制を強化する」が31.1%とこれらは3割以上を占めています。

図 児童虐待を防止するために有効な方法(複数回答)



第8節 青少年健全育成の推進について

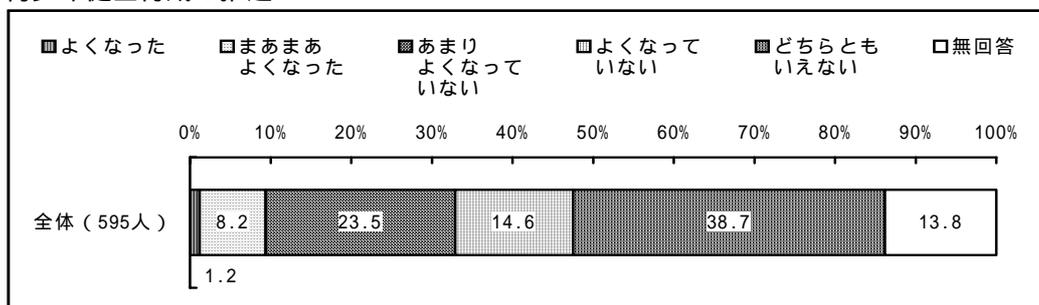
8-1 取り組みに対する評価（問25）

「青少年健全育成の推進」は、“よくなった”が約1割、“よくなっていない”が約4割。

連絡調整機能の充実、非行防止活動の推進など、青少年健全育成の推進については「よくなった」が1.2%、「まあまあよくなった」が8.2%で、あわせると“よくなった”が9.4%です。

その一方、「あまりよくなっていない」が23.5%、「よくなっていない」が14.6%で、あわせると“よくなっていない”が38.1%を占めています。

図 青少年健全育成の推進 (回答者総数：595人)



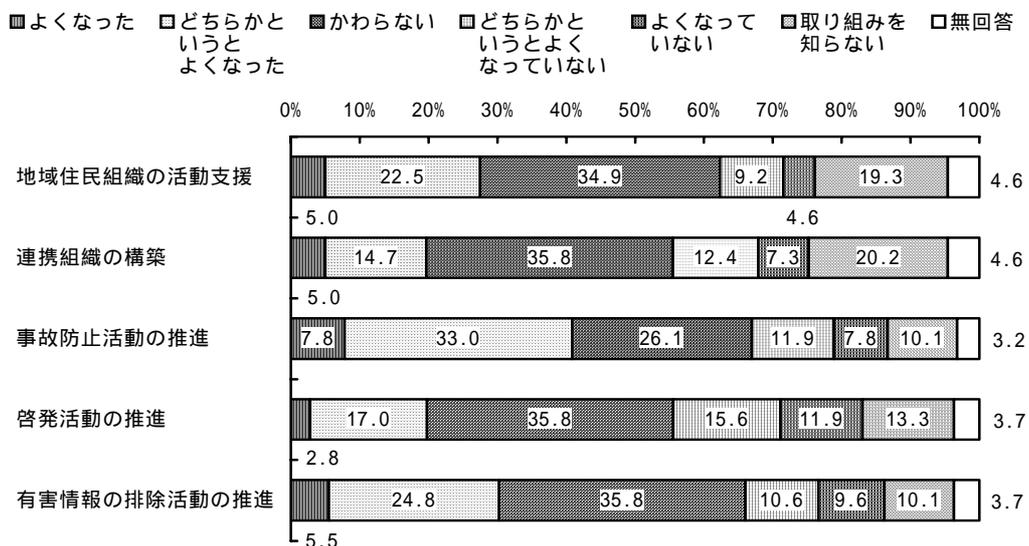
8-2 施策に対する満足度（満足度評価）

“よくなった”が『事故防止活動の推進』では4割以上。

各施策に対する満足度については、「よくなった」と「どちらかというよくなった」をあわせた“よくなった”が、『事故防止活動の推進』では40.8%と4割以上を占めています。

その一方、『啓発活動の推進』では19.8%、『連携組織の構築』では19.7%と2割を下回り評価が低くなっています。

図 施策に対する満足度 (回答者総数：218人)



8-3 関連設問

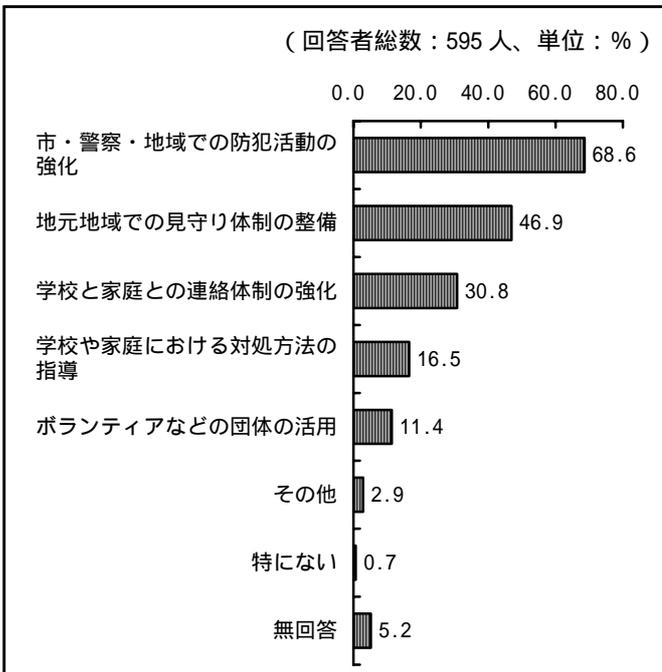
(1) 子どもを犯罪から守るために必要なこと(問23)

「市・警察・地域での防犯活動の強化」が68.6%で最も高い。

近年、子どもたちが、登下校時などに犯罪に巻き込まれる事件が増加しています。

子どもを犯罪から守るために必要なことについてたずねたところ、「市・警察・地域での防犯活動の強化」が68.6%で最も高く、次いで「地元地域での見守り体制の整備」が46.9%、「学校と家庭との連絡体制の強化」が30.8%となっています。

図 子どもを犯罪から守るために必要なこと(複数回答)



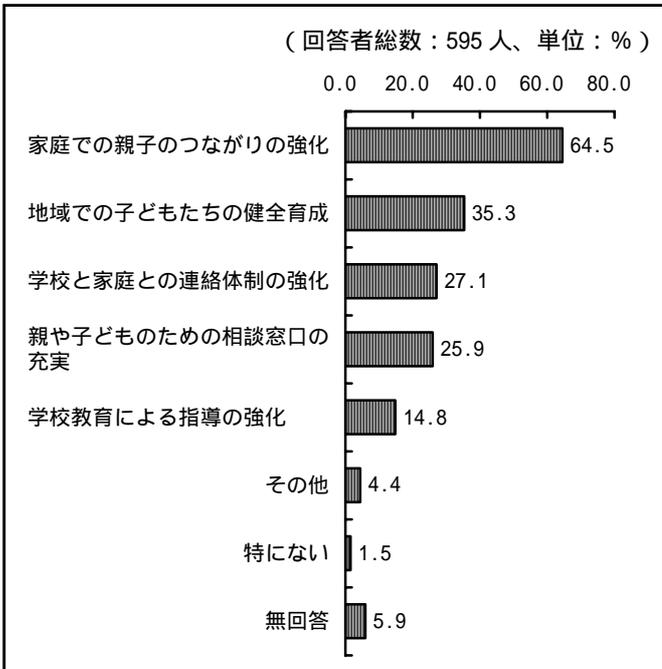
(2) 青少年の健全育成のために必要なこと(問24)

「家庭での親子のつながりの強化」が圧倒的に高い。

最近では、若年層が起す犯罪が目につくようになり、犯罪を防ぐために、子どもの健全育成は欠かせません。

青少年の健全育成のために必要なことについてたずねたところ、「家庭での親子のつながりの強化」が64.5%で圧倒的に高くなっています。

図 青少年の健全育成のために必要なこと(複数回答)



第9節 社会保障の充実について

9-1 取り組みに対する評価（問25）

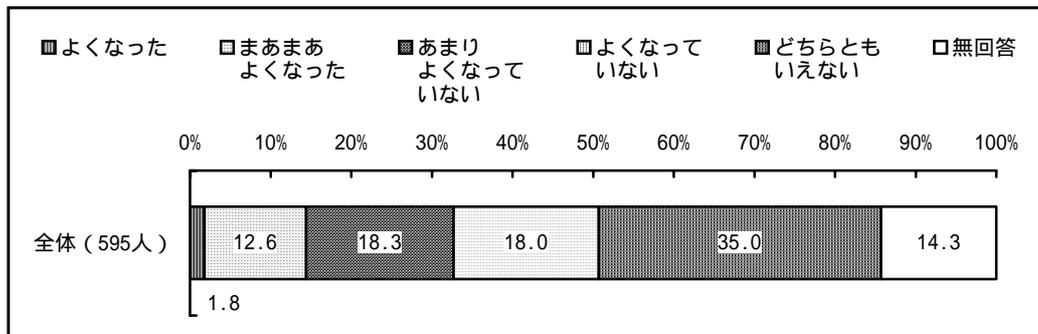
「社会保障の充実」は、“よくなった”が14.4%、“よくなっていない”が36.3%。

国保年金・介護保険の推進、生活保護の充実など、社会保障の充実については「よくなった」が1.8%、「まあまあよくなった」が12.6%で、あわせると“よくなった”が14.4%です。

その一方、「あまりよくなっていない」が18.3%、「よくなっていない」が18.0%で、あわせると“よくなっていない”が36.3%を占めています。

図 社会保障の充実

（回答者総数：595人）

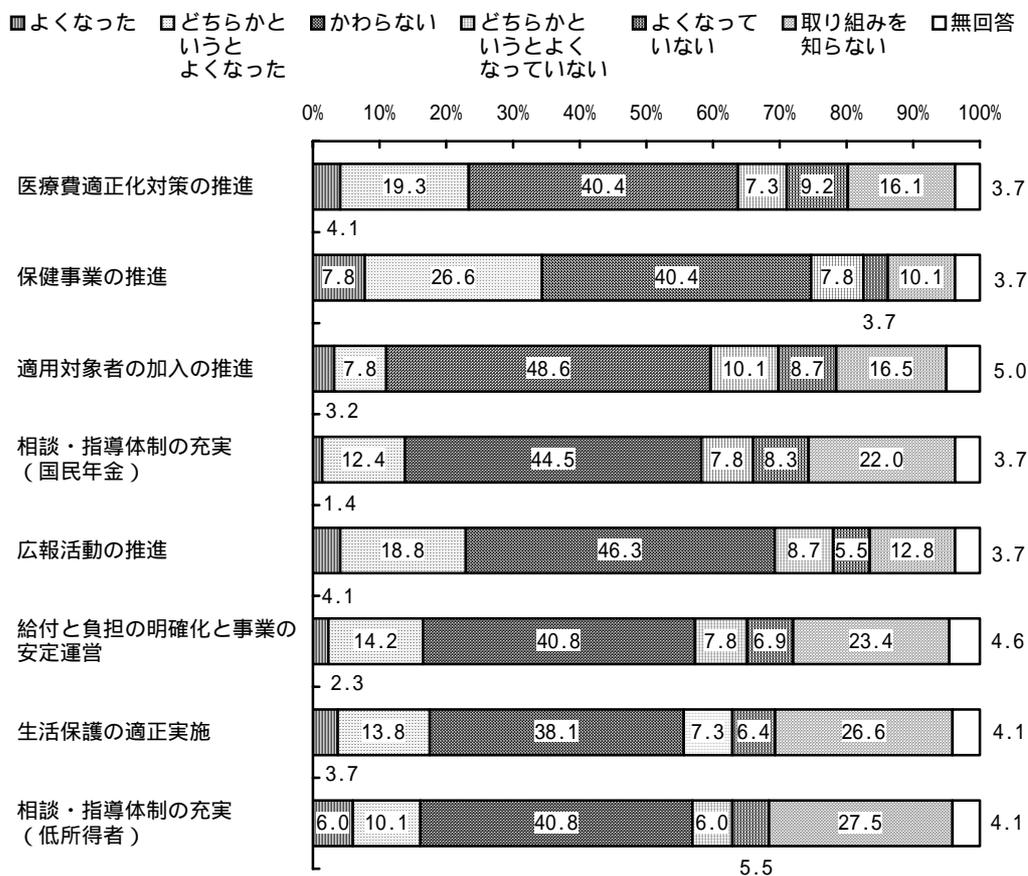


9-2 施策に対する満足度（満足度評価）

特に評価が低いのは『生活保護の適正実施』、『給付と負担の明確化と事業の安定運営』、『相談・指導体制の充実（低所得者）』、『相談・指導体制の充実（国民年金）』、『適用対象者の加入の推進』で1割台。

各施策に対する満足度については、「よくなった」と「どちらかというよくなった」をあわせた“よくなった”がすべて4割を下回っています。特に評価が低いのは『生活保護の適正実施』では17.5%、『給付と負担の明確化と事業の安定運営』では16.5%、『相談・指導体制の充実（低所得者）』では16.1%、『相談・指導体制の充実（国民年金）』では13.8%、『適用対象者の加入の推進』では11.0%と1割台となっています。

図 施策に対する満足度 （回答者総数：218人）



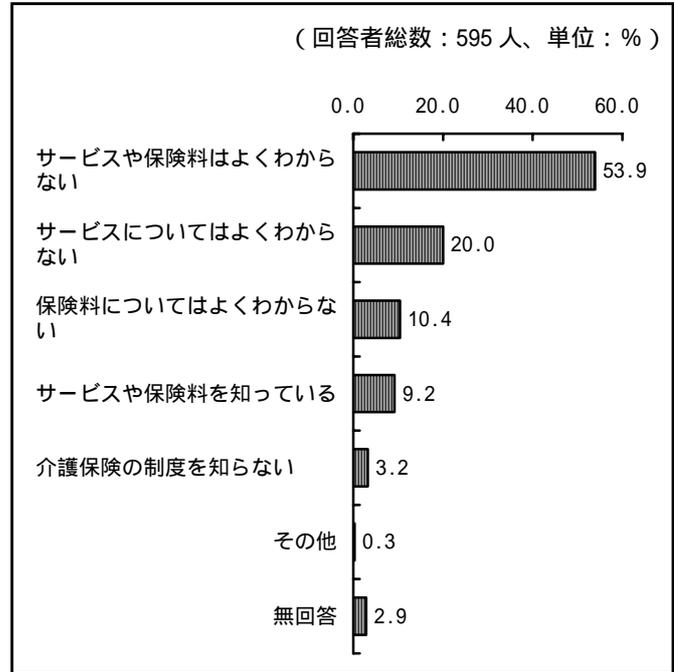
9-3 関連設問

(1) 介護保険制度の周知度 (問15)

「サービスや保険料はよくわからない」が過半数を占める。

介護保険制度の周知度についてたずねたところ、「サービスや保険料はよくわからない」が53.9%と過半数を占めています。

図 介護保険制度の周知度



(2) 介護保険制度導入への評価 (問16)

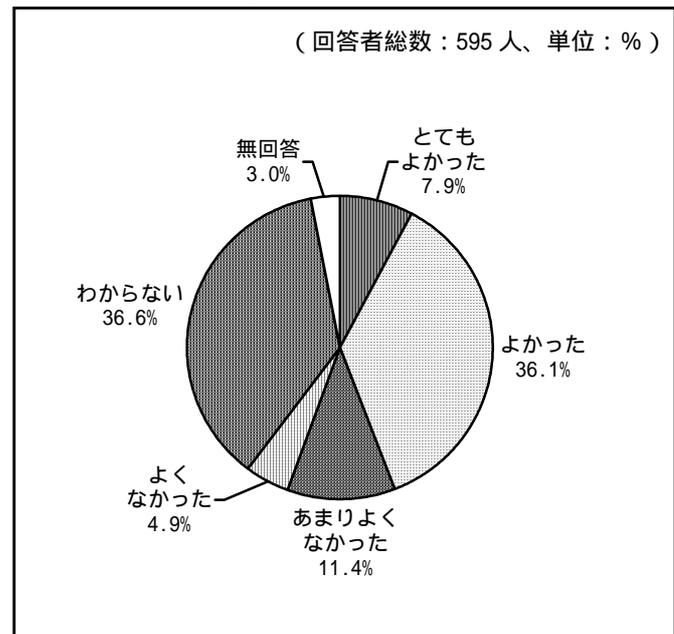
「とてもよかった」と「よかった」をあわせた“よかった”が4割以上を占める。

介護保険制度導入への評価についてたずねたところ、「とてもよかった」が7.9%、「よかった」が36.1%で、あわせると“よかった”が44.0%と4割以上を占めています。

その一方、「あまりよくなかった」が11.4%、「よくなかった」が4.9%で、あわせると“よくなかった”が16.3%となっています。

また、「わからない」が36.6%と3割以上を占めています。

図 介護保険制度導入への評価

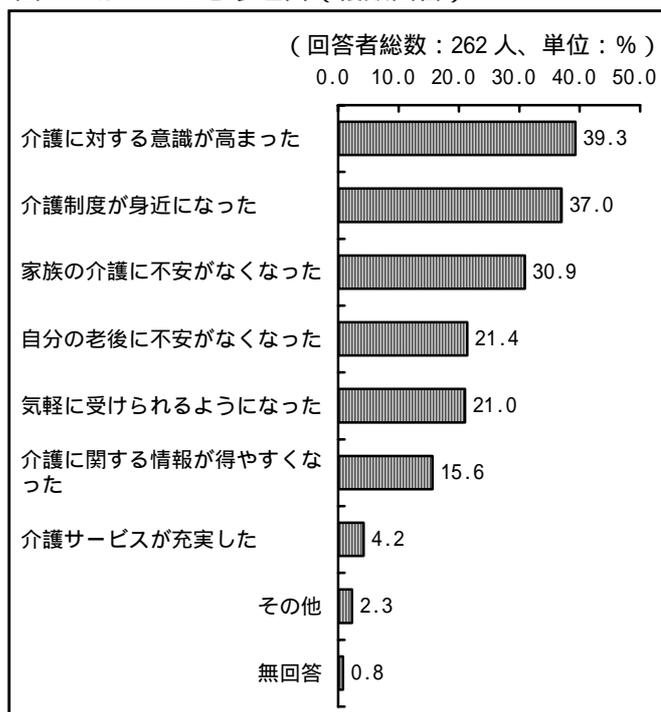


(3) よかったと思う理由(問16-1)

「介護に対する意識が高まった」と「介護制度が身近になった」が約4割を占める。

介護保険制度の導入を“よかった”と回答した人によかったと思う理由をたずねたところ、「介護に対する意識が高まった」(39.3%)と「介護制度が身近になった」(37.0%)が約4割を占めています。これに、「家族の介護に不安がなくなった」が30.9%で続いています。

図 よかったと思う理由(複数回答)

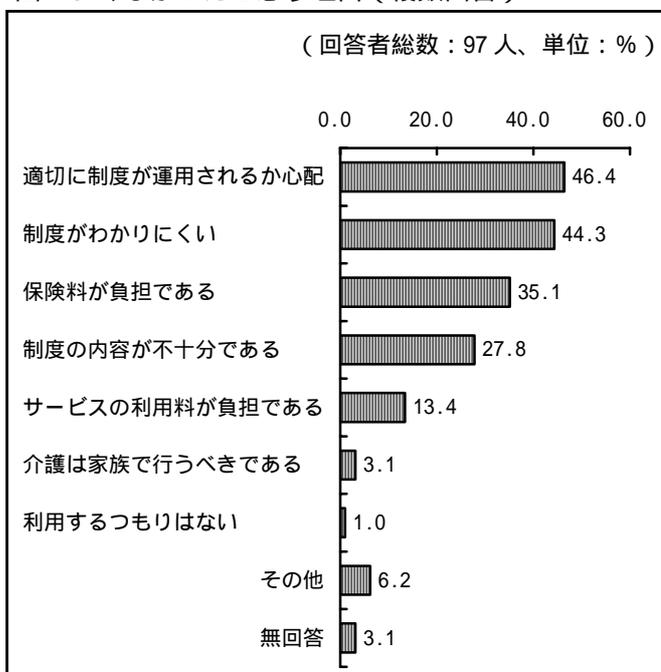


(4) よくなかったと思う理由(問16-2)

「適切に制度が運用されるのか心配」と「制度がわかりにくい」が約4割を占める。

介護保険制度の導入を“よくなかった”と回答した人によくなかったと思う理由をたずねたところ、「適切に制度が運用されるのか心配」(46.4%)と「制度がわかりにくい」(44.3%)が約4割を占めています。これに、「保険料が負担である」が35.1%で続いています。

図 よくなかったと思う理由(複数回答)



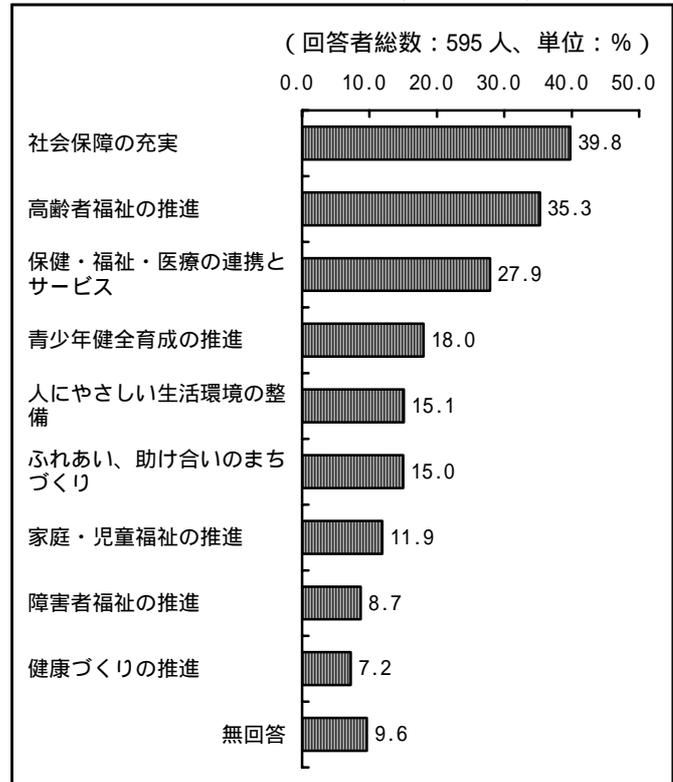
第10節 重点的に取り組むべき施策

10-1 重点的に取り組むべき施策（問26）

「社会保障の充実」が最も高く、「高齢者福祉の推進」、「保健・福祉・医療の連携とサービスの充実」が続く。

健康・福祉についてこれからの5年間（平成18年度～22年度）重点的に取り組むべき施策をたずねたところ、国保年金・介護保険の推進、生活保護の充実など「社会保障の充実」が39.8%で最も高くなっています。次いで生きがい支援、在宅介護支援の推進など「高齢者福祉の推進」が35.3%、市と関係各機関との連携強化など「保健・福祉・医療の連携とサービスの充実」が27.9%が続いています。

図 重点的に取り組むべき施策（複数回答）



第11節 サービスを低下させないために必要なこと

11-1 サービスを低下させないために必要なこと（問27）

「民間活力を促進して整える」が最も高く、「財政状況に応じて提供する」、「受益者負担により維持する」が続く。

国や県だけでなく、佐倉市においても厳しい財政状況が続いています。

サービスを低下させないために必要なことについてたずねたところ、「民間活力を促進して整える」が27.1%で最も高く、次いで「財政状況に応じて提供する」が22.2%、「受益者負担により維持する」が21.8%が続いています。

図 サービスを低下させないために必要なこと

